

ターミナルケアによせて

人は誰もが人生の終わりを迎える時が来ます。当館に入所されている利用者の方が終末期を迎えられたときに、慣れ親しんだ施設で最後まで穏やかに暮らしていただけるようにとの思いで支援させていただいています。そして、ご家族にとっても大切な家族と過ごす時間が、かけがえのない時間であり、悔いの残らない充実したものであってほしいと思います。

最近亡くなられた方で、ご家族様より「一度、父を連れて帰ってあげたい」と相談があり、ご本人、職員とともにご自宅に訪問したことがありました。息子や娘、孫夫婦とひ孫に迎えられ住み慣れた自宅に入りました。奥様の遺影を見たり、好きだったタバコを吸ってみたり、好きなものを味わい、そして家族の手によってきれいに散髪もされました。その間ご家族様は、ずっと声掛けをしながら手を握り、体をさすり、顔に触れたりされていました。話しかけている表情はとても穏やかで、その行為は本当に愛しさに溢れるものであり、愛しくてたまらない気持ちがこちらにも伝わってくるものでした。そしてそれは「家に帰ることができて本当に良かった」と、その場にいた皆が心から思えた時間でもあったのではないかと感じました。ご家族の思いや関わりは様々ですが、残された時間が最後までご本人らしく過ごせること、そして充実した日々であるよう、ご家族の気持ちに寄り添いながらこれからも支援させていただけたらと思います。

介護支援専門員 黒田



※写真の掲載につきましては、事前にご家族様からご了承をいただいております。

在宅復帰の取り組み

なんぐん館では住み慣れた自宅での生活をお手伝いするために、ご本人の状況に合わせて在宅生活に必要なリハビリを行います。また生活しやすい環境を整えるなど、各専門職と話し合いをしながら自宅に帰って生活するための取り組みを行っています。

ご利用いただいている方は、1人暮らしだったり、ご家族と同居されていたり生活環境は様々です。またご利用の理由も様々です。「まだ身体が動きにくいので、病院を退院した後もリハビリを続けたい」「自宅で生活をしていただけ最近動きにくくなったのでリハビリをしたい」「長期間の介護生活が負担になってきた。自宅と施設を行き来して少しでも自宅で生活をさせてあげたい」などです。

その他にも「入所中に状態が良くなったので、サービスを使いながら家で生活したい」と希望された時には担当のケアマネジャーとの連携を図って退所支援も行っています。

ご自宅に帰ることで生き生きと表情が明るくなったり、ご本人が生活に工夫をして活発に動くようになるなどの変化が見られ、自宅が大切な場所なんだと実感します。これからもご本人、ご家族の思い出のある自宅で少しでも長く過ごせるようにお手伝いをさせて頂きたいと思います。

介護支援専門員 山口



お花見

今年のお花見は、新型コロナウイルスの影響により館内で各フロアごとに行いました。



ひな祭り

